

創刊110周年記念

# 誇れるふるさと 24地区リレー

〈vol.13〉

〈川上② 課題とキーマン〉

川上地区は、地域計画に▽安心・安全な地域づくり▽子どもを地域で見守り、育てる仕組みづくり▽地域の健康づくり・保健福祉の推進▽地域文化の継承・自然環境の保全▽元気で活力あふれる地域づくりの5項目を掲げている。

「歴史新しくとも、一体感強い」



地区の代表的行事、3世代ふれあいフェスティバル（川上小で）

## 活動継承へ、中学生ボランティア活躍

どの項目でも必要に迫られているのは、地区を支える次世代人材の発掘。川上地区も他の地区と同様、地域団体の役員、担い手の継承は大きな課題となっている。地区の高齢化率は28・39%（4月1日現在）。黒石、新川地区に次いで低いが、北迫新町とひらき台は団地ができてから約40年がたっており、高齢化は確実に進んでいる。

ふれあい運動推進委員会の江本祥三会長は「若い人に入ってもらったため、現役員のわれわれが運営を楽しむことを意識している。楽しさが普及すれば、組織にも入りやすくなるし、組織の強化にもつながるはず」と話す。

地域行事に中学生ボランティア（ジュニアリーダー）の参加を促しているのも、次世代に向けた取り組みの一つ。地区社会福祉協議会の三輪篤生会長は「子どもたちには企画・立案に携わること

で、地域を盛り上げる喜びを味わってほしい。それが将来の担い手の育成につながる」と期待する。異なる二つの地域が合併した地区という特性を後世にもつなげる活動を続けているのも特徴。地域に散らばる「お宝」を発掘する試みとして、2016、17年に市の助成金を活用し、沢波川沿線のウォーキングコースの整備、ホタルの里づくりプロジェクトなどに取

組み、地区内外に川上の魅力を発信する活動を進めてきた。コロナ禍で中止が続く地域行事もある中、年末にはしめ縄作りなどの行事を予定している。地区コミュニティ推進協議会の大塚徹会長は「地域行事は、行つことで次世代につなげていくことができる」と継承のための継続性を指摘する。他地区と比べ、イベントの会場となるふれあいセンター、小・中学校がまとまった位置にあり、駐車場も確保できているという大きな利点を挙げ「だからこそ、歴史は新しくとも地域の一体感強い」と力を込める。